

2025 年度 石狩西部広域水道企業団地球温暖化対策実行計画の進捗状況

1 二酸化炭素の排出量の推移

当企業団の事業実施に伴う二酸化炭素（以下、「CO₂」）排出量の推移は、図 1 のとおりです。

2025 年度の CO₂ 排出量は 4,335t-CO₂ であり、2024 年度の排出量（810t-CO₂）と比較して大きく増加しました。これは、2025 年度より札幌市への用水供給を開始し、2 系浄水処理施設及び札幌ポンプ場・分水施設の稼働により、エネルギー使用量が大幅に増加したためです。

また 2025 年度からの 6 年間は、2025 年度を基準年度とし、2030 年度までに CO₂ 排出量を 5 %削減する目標としており、目標年度までの削減量と削減率は表 1 に示すとおりとなります。

表 1 2030 年度までの削減目標

実行計画		
基準年度（2025年度）排出量(t-CO ₂)		4,335
削減目標	削減量(t-CO ₂)	217
	削減率	5%
目標年度（2030年度）排出量(t-CO ₂)		4,118

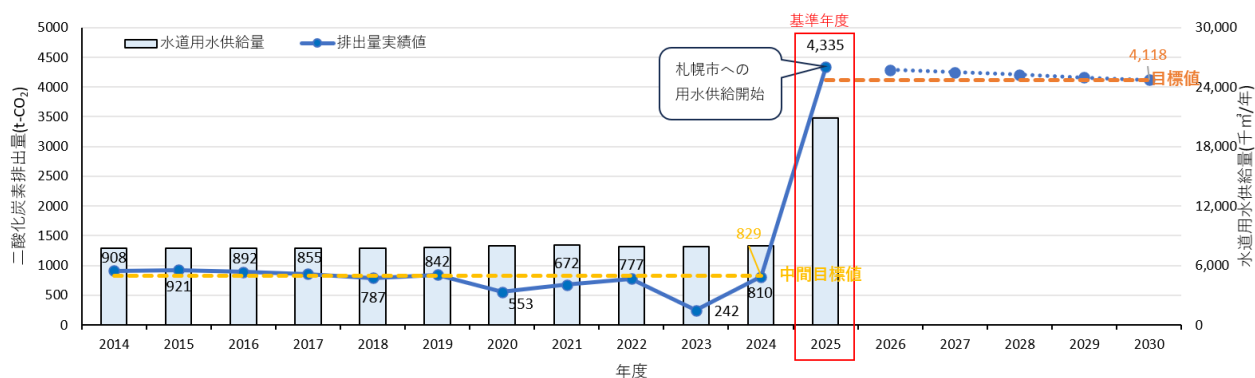


図 1. 二酸化炭素排出量の推移

2 エネルギー種別の CO₂ 排出量の割合

エネルギー種別の二酸化炭素排出量は図 2 のとおりであり、98.66%が電気利用により生じておりました。

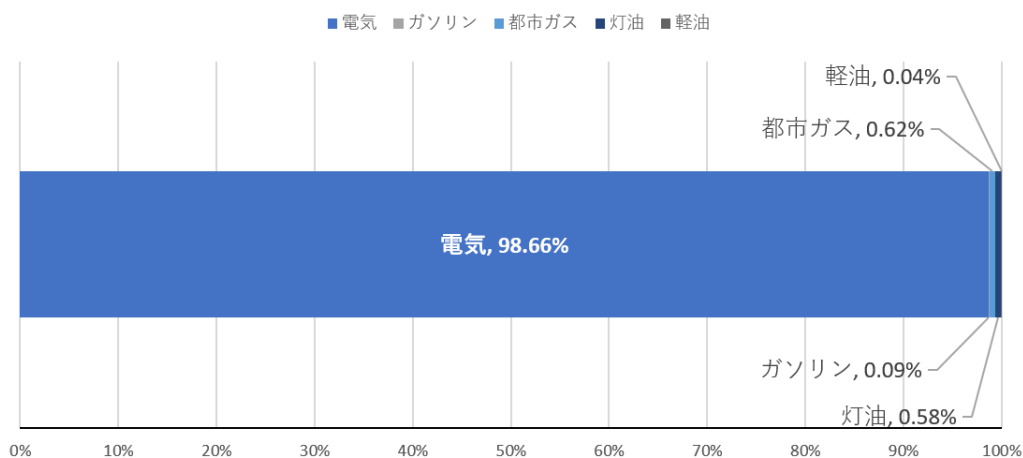


図 2 エネルギー種別の CO₂ 排出割合

3 電気使用量の推移

当企業団の水道施設における電気使用量は、表2のとおりです。

2025年度の電気使用量は、2024年度と比較して5.5倍の増加となりました。増加の要因は、札幌市への用水供給開始による2系浄水処理施設及び札幌ポンプ場・分水施設の稼働によるものです。

表2 電気使用量の推移 (単位：kWh)

年度	2024	2025	増減	増減率
水道施設				
当別浄水場（高圧）	951,349	1,493,444	542,095	157.0%
札幌ポンプ場・分水施設（高圧）	－	6,100,513	6,100,513	－
当別分水施設（高圧）	445,303	453,490	8,187	101.8%
花川分水施設（低圧+従量電灯）	12,836	12,646	-190	98.5%
新港分水施設（低圧+従量電灯）	14,541	13,718	-823	94.3%
小樽分水施設（低圧+従量電灯）	13,403	14,037	634	104.7%
当別管理上屋（低圧+従量電灯）	1,948	2,487	539	127.7%
札幌管理上屋（低圧+従量電灯）	730	731	1	100.1%
No.5緊急遮断弁（低圧+従量電灯）	2,749	835	-1,914	30.4%
水道施設計（A）	1,442,859	8,091,901	6,649,042	560.8%
八軒事務所（B）	34,001	33,566	-435	98.7%
総計（A+B）	1,476,860	8,125,467	6,648,607	550.2%
水道用水供給量（m ³ /年）（参考）	7,938,833	20,893,334	12,954,501	263.2%

4 実行計画に基づく主な取組

○電気使用量の削減

- ・ 浄水施設及び分水施設に係る運転管理の効率化及び適正化に取り組むとともに、水道施設の運転管理業務受託者に同様の取組を要請しました。
- ・ 不必要な照明の消灯や、パソコン・コピー機の省電力機能の有効活用等の節電に取り組むとともに、水道施設の運転管理業務受託者に同様の取組を要請しました。

○ガソリン使用量の削減

- ・ 効率的な公用車の使用や、エコドライブを実践しました。

○灯油・ガス使用量の削減

- ・ 事務室の適正な温度管理及びナチュラル・ビズ・スタイルを推進しました。

5 今後の取組

2025年度を新たな基準年度とし、2030年度までに基準年度から5%削減することを目指してまいります。

企業団としては、CO₂排出割合の9割以上を占める、「電気」のCO₂排出量を削減するため、従前の取組に加え、電気使用量の多い施設での削減方策を検討します。